

# Weekly Market Report

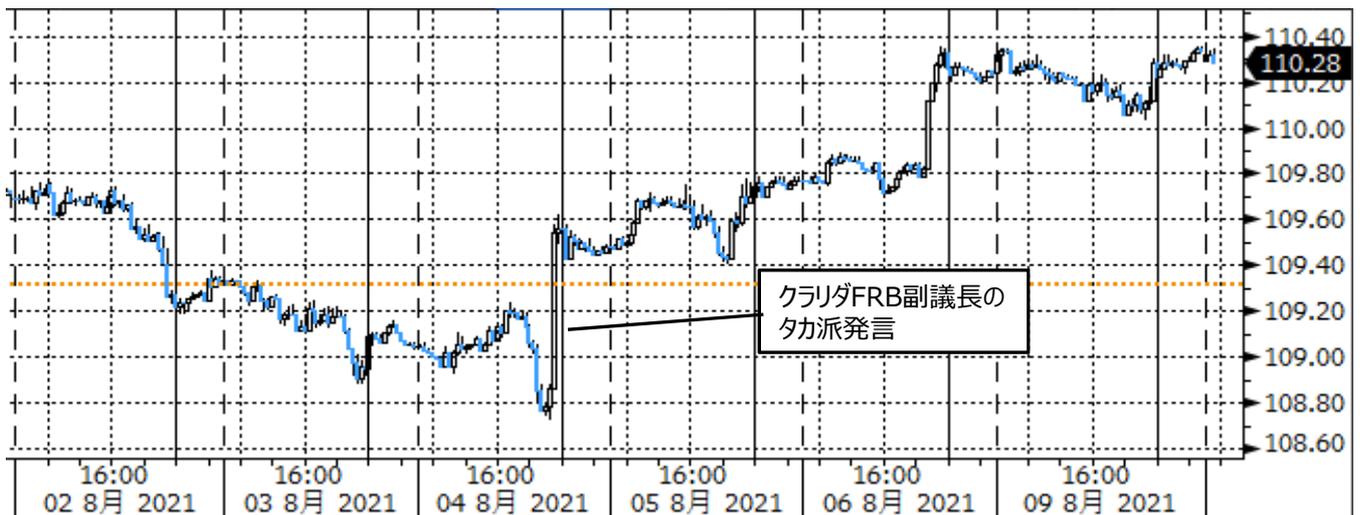
Aug 10, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

米国の金融政策正常化スケジュールをにらみながらドル円相場はレンジ推移か

### USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

### コメント

先週のドル円相場は一時5月来の安値を付けるも反発する展開。週初は前週末のドル買いの流れを引継ぎ109円台後半からの開始となったが、米ISM製造業指数が予想を下回ったことや新型コロナウイルスデルタ株の感染が世界中で拡大していることを受けて米国10年金利が1.1%台まで低下、ドル円相場も一目均衡表の雲の下限を下抜けて108.73円まで下落する展開となった。ただし、クラリダFRB副議長から「米経済が予想通りに推移した場合、2023年には利上げを開始する」との見通しが示されたことでドル買い圧力が強まり、ドル円相場は109円台後半まで戻すこととなった。週末の米雇用統計については非農業部門雇用者数が94.3万人の増加と予想を上回る結果となり、ドル円相場は110円台を回復して越週している。今週のドル円相場はレンジ推移か。FRB高官によるタカ派姿勢を受けた米国中短期金利の上昇期待がドル円相場を下支えするものの、FRBが金融政策正常化を速める追加材料も乏しいことから、上値も重い展開となりそうだ。(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
8/10(火)	(ドイ) 8月ZEW景況感期待指数	56.7
8/11(水)	(米国) 7月消費者物価指数 (前月比)	0.5%
8/12(木)	(英国) 4-6月期四半期GDP (前年比)	22.1%
8/12(木)	(米国) 7月卸売物価指数 (前月比)	0.6%
8/13(金)	(米国) 8月ミシガン大学消費者態度指数	81.2

### USD/JPY (5年間)



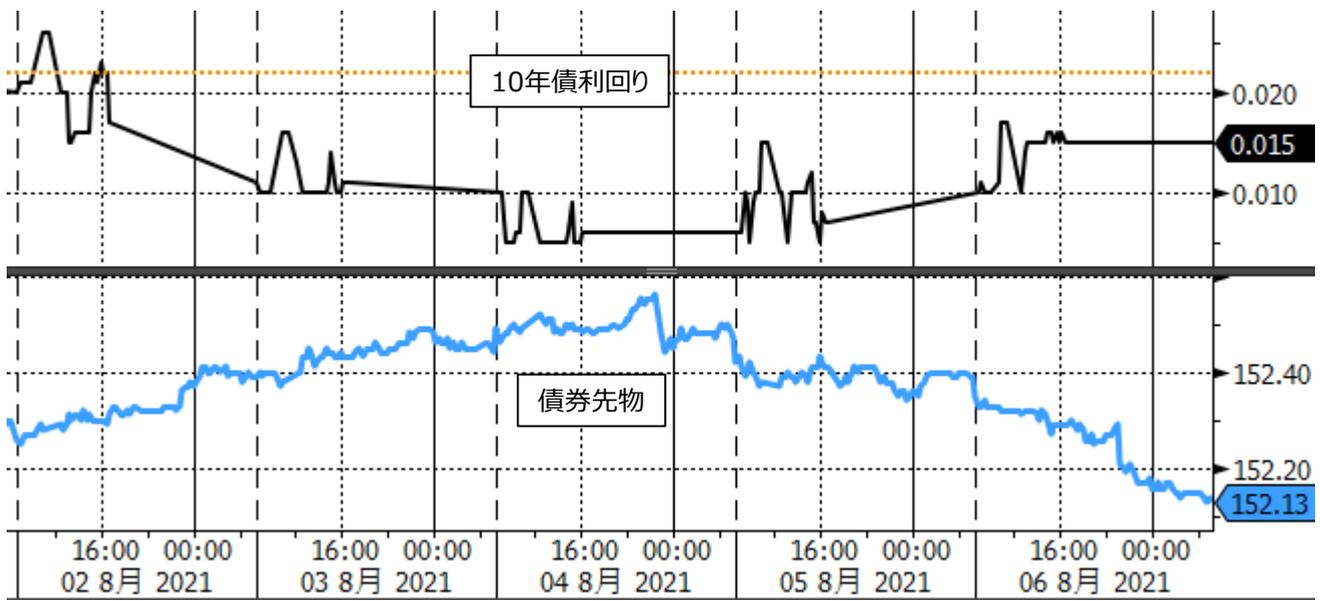
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	109.50 - 111.50	好調な米経済指標やFRB高官らのタカ派姿勢により、ドル円下値は堅い展開を予想。CPI結果、米長期金利動向に注目。
山下航平	109.90 - 111.50	足元の経済指標が上振れする中、今週の米CPIの内容次第では出口戦略の可能性が再燃し、ドル高優勢の展開を予想。

## 2. 円金利相場概況

国内材料乏しく引き続き米長期金利動向に左右される展開を予想。

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

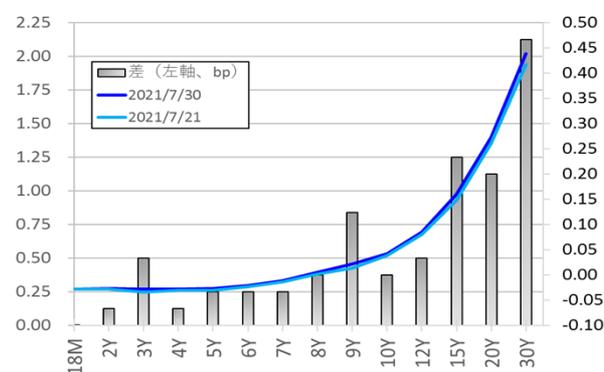


(出所) Bloomberg

### コメント

先週の10年国債利回りは0.022%から0.015%の推移。週初は世界的な新型コロナウイルス変異株感染拡大から米長期金利が低下してスタート。週中に発表されたADP雇用統計が弱い結果となったことで米長期金利は1.12%まで下落も、週末に発表された米雇用統計の強い結果を受け、1.3%台まで急上昇。10年国債利回りは0.015%にて越過。今週は国内材料乏しく、10年国債利回りは引き続き米長期金利に連動した動きとなるだろう。足元米経済指標の上振れが続く中、今週の米CPIの結果に注目したい。今週は10年、30年債の入札予定。(市場営業部/山下)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（5年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.00% - 0.04%	米雇用統計改善等によるテーパリング前倒し観測から、米金利が上昇して返って来ており、円金利も上昇余地を探る展開か。
伊豆浦有里恵	0.00% - 0.035%	国債入札前の調整や、米テーパリングが意識され金利にはやや上昇圧力も、デルタ株感染拡大等不透明要因には要注意。

### 3. 今週のトピックス

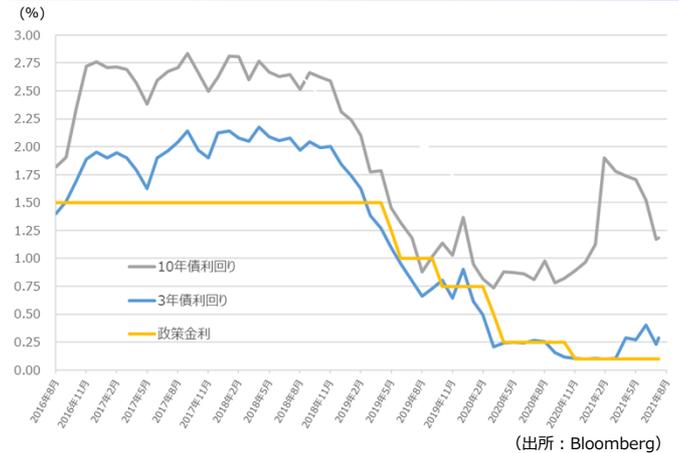
#### 豪州経済の回復とテーパリング期待

#### RBAは金融政策を現状維持で継続したが、テーパリング期待は顕在か？

##### 1. RBA金融政策

豪中銀（RBA）は8月3日の理事会で政策金利を0.1%に据え置き、2024年4月債の利回り目標も0.1%に維持した。なお資産買い入れプログラムについては、9月初旬まで週50億豪ドル、少なくとも11年半ばまでは同40億豪ドルに継続するとした。昨今のコロナ感染拡大から、前月の理事会で決定した資産買い入れプログラムの規模縮小を見直すとの観測が浮上したが、今回は「債券購入ペースに対しては、柔軟なアプローチを維持」、「資産購入プログラムは経済情勢やインフレ目標、感染動向の観点から、今後も見直す」との声明が出され、経済動向によりプログラムを見直す可能性を示唆することとまった。但し、ロウ総裁からは経済が予想以上に力強いとの発言もあり、3年債の利回りはわずかに上昇に転じていることから、今後のテーパリング期待は引き続き維持されていると予想される【表1】。

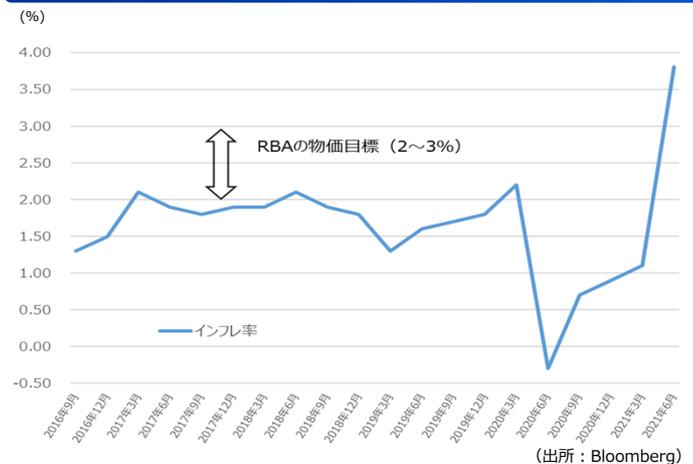
【表1】豪州政策金利及び国債利回り推移



##### 2. インフレ動向とコロナ感染拡大について

第2四半期のインフレ率は3.8%と高い伸びを示し、政府目標である2~3%を超過した【表2】。但し、RBAは持続的にインフレ目標の範囲内で推移するまで、政策金利の引き上げは実施しないとの考えを示している。また新型コロナウイルスのデルタ株感染拡大により、豪州最大都市シドニーの都市封鎖が今月28日まで延長された事等から、7-9月のGDPは減速すると予想されており、景気回復も思うように進んでいない。RBAのシナリオとしては、2022年にかけて4%強、2023年には2.5%前後のGDP成長を見込んでいるが、今年末までに国民の大半がワクチンを接種し、来年半ば頃から経済活動が一段と拡大していく条件に基づいており、当面はコロナ感染状況とワクチン接種状況を注視していく必要があるだろう。

【表2】インフレ率と豪州中銀（RBA）の物価目標



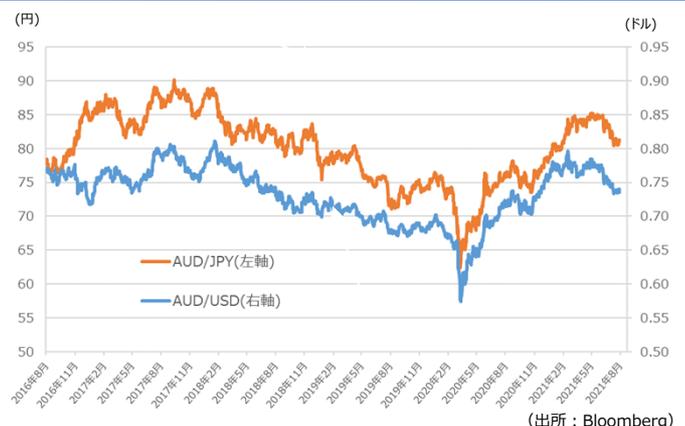
##### 3 豪ドル円相場

今後の豪ドル相場は、コロナ感染拡大による三大都市の都市封鎖や、足元7-9月のGDP悪化が見込まれるなど、コロナの感染状況に大きく影響を受ける展開が想定される。豪州最大の輸出先である中国については、7月PPI（前年比+9.0%）、4-6月期実質GDP（前年同期比+7.9%）の結果が良好である一方、米中対立の再燃が景気回復を遅らせる可能性もあり、引き続き米中の動向に注意が必要である。

対米ドルとしては、米国経済が回復を見せる中で利上げ期待が高まっている背景から、米ドルが買われる展開が予想される。対円は、日本も緊急事態宣言が延長されており金融正常化が見えない状況である中、豪州は主要資源である鉄鉱石の価格が上昇していること等によって経済収支の良化が見込まれることから、当面は豪ドルが買われやすい環境が続くと思われる。

(市場営業部/三原)

【表3】豪ドル/米ドル、豪ドル/円推移



## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会